

おおすみくん家 キッズたんけんたい①②③

- 1 趣 旨 小学校下学年の子供たちが親元を離れて共同生活や自然体験活動を行い、仲間と関わったり、協力したりする活動を通して、自立心や自尊感情を育てる。
- 2 期 日 ①令和元年10月13日(日)～14日(月・祝) 1泊2日
②令和元年10月26日(土)～27日(日) 1泊2日
③令和元年11月16日(土)～17日(日) 1泊2日
- 3 対象者 小学1～3年生
- 4 募集定員 36人
- 5 参加者 ①36人(申込者数153人)
②36人(申込者数132人)
③35人(申込者数99人)
- 6 指導者 国立大隅青少年自然の家職員
- 7 日程と主な活動



1 日 目	2 日 目
10:00 ・受 付	6:00 ・起 床
10:30 ・出会いのつどい ・オリエンテーション	・荷物の整理
11:00 <チャレンジ1> 「ふれあいタイム」	7:30 ・朝 食(レストラン)
12:00 ・昼 食(レストラン)	9:00 <チャレンジ5> 「野外クッキング」
13:15 <チャレンジ2> 「たんけんにいこう」	13:00 ・ふりかえりタイム
16:00 <チャレンジ3> 「ダンボールハウスをつくろう」	13:20 ・別れのつどい
18:00 ・夕 食(レストラン)	13:50 ・解 散
19:00 <チャレンジ4> 「遊びリンピック」	
20:00 ・入浴, 就寝準備	
21:00 ・就 寝	

8 事業運営について

- 子供達が意欲的に取り組めるような活動や、友達と協力する活動、自然体験活動をプログラムに取り入れた。
- 「早寝・早起き・朝ごはん」の実施や食事及び寝具の準備、後片付け等の活動を通して、基本的な生活習慣への意識を高めるようにした。
- 「たんけんにいこう」という活動では、所内を散策しながら、どんぐりや木の実、鳥のさえずりに気づかせ、自然と触れ合う良さを体感できるようにした。
- 自分たちの寝床をダンボールで作らせたり、野外クッキングをしたりすることで仲間と協力する大切さを気付かせるようにさせた。

9 事業の実際

- 基本的な生活習慣への意識付け
共同生活を通して、「自分のことは自分でする」を目標に食事や寝具の準備や後片付け、整理整頓など生活体験を多く取り入れた。初めて自分で行う子供も多く、悪戦苦闘しながらも、しっかりと取り組んでいた。

(2) たんけんにいこう

所内のグリーンアドベンチャーを活用して「たんけんにいこう」という活動を行い、自然と触れ合いながら、仲間と協力して楽しめる内容を計画した。

(3) ダンボールハウス作り

ダンボールハウスを作ることで班の仲間と話合い、自分たちの寝床を作るという達成感を味わせるようにした。

(4) 遊びリンピック

遊びリンピックでは、割りばしダーツ、空き缶積み、紙ちぎりの3種類のゲームを実施した。下学年でも簡単にできる内容で、参加した子供たちは真剣に取り組んでいた。また、友達を励ます姿も見られ楽しんでいた。

(5) 野外クッキング

野外クッキングでは、安全面に考慮し、棒パン・塩がま焼き豚を作り、低学年でもできる範囲で野外炊飯を楽しみながらできるように配慮した。

10 参加者の感想

- 探検の中の宝探しでどんぐりを拾ったり、みんなでミッションをしたりするのが楽しかった。
- カッターやはさみを使ってがんばってダンボールハウスを作った。班のみんなでアイデアを出して作っていくのが楽しかった。
- 寝袋で寝るのは初めてだったので、ワクワクした。
- ダンボールハウスで、みんなで寝るのが楽しかったし、野外クッキングのパンがおいしかった。
- 起きるのをがんばった。自分で起きられてうれしかった。
- 1人で寝られるようになったので、うれしかった。
- 班長だったので、みんなを並ばせるのをがんばった。最初はうまく並べられなかったけれど、後の方は早く並ばせることができた。

11 成果

- 「たんけんにいこう」を計画したことで、自然をより身近に感じると同時に仲間と協力する意識を高めることができた。
- ダンボールハウス作りでは、どんな家にするのか話し合ったり、作り方を工夫したりして、参加者が主体的に活動する場面が多く見られた。
- 異年齢で班を作りそれぞれに役割をもたせたことで、上学年が下学年のことを気かけたり役割を意識して行動したりする姿が見られた。
- 親元を離れ、自分のことは自分で行う生活体験を通して、参加者の自立心を養うことができた。

